

「私が存在しない世界」

苫小牧市立光洋中学校 阿部しるれ 1年

『六六一グラム』

私の出生体重である。

六〇〇ミリリットルのペットボトルを持ち母が、

「この位で生まれたんだね。」

と、ポツリと言う。私も持ってみる。か、軽い……。

超低体重児で生まれたこと、今でも元気に生きていることは、『キセキ』なのだ。

私が生きてなかったら今こうして不自由なく生活していること、おいしいものを食べる
こと、好きな絵を描くこと、カラオケで歌うこと、友達とおしゃべりを楽しむこと、全てが
無いものなのだ。

命懸けで産んでくれた母、病院のお医者さん、看護師さんたちには感謝しかない。

私には十一歳上の兄と十四歳上の姉がいる。

昔の写真を見ていると二人の小さい時の行事や旅行の写真がたくさんあり、どの写真に
も私はいない。写真の中の二人は『私が存在しない世界』で生きているのだ。

私には兄と姉がいる世界が当たり前なので二人が『私が存在しない世界』で楽しそうに過
ごしているのを見ると少しさびしくもあり、不思議な気持ちになる。

私は小さく生まれて生死をさまよい何ヶ月も入院し無事に退院してからも小学校にあが
るまでは何度も入退院をくり返していた。

その時兄や姉は今の私と同じ位の歳。その時期、母との時間を全て私にとられ、妹の私の
心配をし、どんな気持ちだったのか甘えん坊で気弱な私には想像もつかないが兄と姉はい
つも私に優しくとてもかわいがってくれている。写真の中の幼い二人にしっとしている自
分が小さく感じる。

私は今とても幸せだ。

しかし、生きている中で辛いなと思う時もある。テスト前の勉強、友達とのトラブル、運
動が苦手な私にとっての体育祭は最悪なものでしかない。自分一人が恥をかくだけでなく
クラスのみんなにも迷惑をかけてしまうのではないかというプレッシャー。どれも私にと
っては辛いことなのだ。

では、『私が存在しない世界』に行きたいのか。そんな訳がない。

私は生きていることが幸せなのだ。生まれてこれたことの『キセキ』をむねに一日一日を
大事に生きていきたい。

私は生きる。

『私が存在する世界』で。